

## ■■ 学長挨拶 ■■

### 神戸大学 学長 鈴木 正裕

シンポジウムの開催にあたって一言ご挨拶を申し上げます。

まずは本日のシンポジウムの開催にあたり、ご多用のところ、またご遠方からも、お集まりいただきました皆様方に、厚く御礼を申し上げます。とくに後程、ゲスト講演をいただきます浅野先生、岡崎次長さんをはじめ、午後からのパネルディスカッションにご参加をいただきます学外の方々に、貴重な時間と労力をお割きいただきますことにつき、申し訳なく思うとともに、心から御礼を申し上げます。

さて、神戸大学でも、大学内の情報処理のシステム化と効率化をめざして、ここ数年、学内情報ネットワークシステム（いわゆる学内 LAN）の整備につとめてまいりました。しかし、この整備は、主として学内経費に頼っていたため、なかなか思うように進まず、いらだちさえ覚えていました。ところが、突如として、平成 5 年度の補正予算によって、この学内 LAN が完成されることになりました。この補正予算は、ご承知のように、沈滞をつづける景気を刺激するための方策ですが、国内の企業ではこの沈滞を脱却できず苦慮されているところが多いのに、われわれだけこのような幸運に恵まれてよいのか、と内心じくじたるものがあります。しかし学内 LAN がなかなか完成せず、この面での大学の充実発展に悩んできたわれわれには、まさに神風が吹いてきたような思いです。

このように学内 LAN は一応完成し、運転もはじめることになりました。しかし、この学内 LAN の完成は、いわばネットワークというハードが完成しただけのことであり、今後このハードをどのように利用していくか、どのような役割を担わせていくか、という問題が残されています。大学内に散在する知的情報をどう集めるか、その収集された知的情報を、地域に、社会に、さらには世界にどのように発信していくか、といういわばソフトの問題が残されています。

私どもがメンバーとなっている国大協（国立大学協会）においても、大学の情報化のあり方とその推進、大学のもつ情報ネットワークと地域の関係など、情報処理に関する問題をたえず議論しています。そのほかにも、国大協では、大学受験人口が減ってきたり、わが国の国際的地位の上昇にかんがみ、教育研究のあり方、国際貢献のあり方について、懸命になって議論をしております。つまり私どもの認識では、今や大学は一つの大きな曲がり角にさしかかっていると考えております。

神戸大学でも、3 年前の教養部、教育学部の改革以来、教職員の努力によって改革に改革を重ねております。人によっては、神戸大学はじまって以来の大改革、と評する人もおられます。はたしてそうか、渦中にいる私どもにはよく分かりませんが、しかしこの改革の時期に、情報ネットワークが完成したことは、力強い味方を得たような思いをしております。

しかし、先に申しましたように、ハードは出来上がりましたが、ソフトのほうが今後の課題となっています。幸い、本学には、この課題に向けて、高森教授をはじめ熱心で優秀な先生方が揃っておられます。私どもとしては、これらの先生方を中心に、知恵を出し工夫を重ねて新しい方策を開拓していきたいと考えています。しかし、私どもの力にはおのずから限界がござ

います。今日ご参加の兵庫県、神戸市、関係の企業の皆様のお力添えをたまわりますよう、せつにお願い申し上げる次第です。

それでは、今一度、皆様のご参加に心からお礼を申し上げて、私のご挨拶を終わらせていただきます。ありがとうございました。

